

2 全員参画型の取り組みを

Case 2

B社は、環境への取り組みに力を入れている事務機器メーカーです。

そのB社が目標として掲げたのは「ゴミゼロ工場」の実現でした。その目標に対して、トップから1つだけ注文がありました。それは、「環境は大切だが、現場にはあまり負荷をかけないでくれ。現場はやらなければならないことをたくさん抱えているから。そして、できればわかりやすく楽しく推進してくれ」というものでした。

ゴミゼロのためには、ゴミの分別など現場の協力が欠かせません。なるべく現場に負荷をかけずに、ゴミゼロを達成する。この課題を解決するにはどうすればよいでしょうか。

「わかりやすく楽しく」で全員を巻き込む

「ゴミゼロ」のような課題を達成するためには、現場の協力が欠かせません。にもかかわらず、ときに「会社で決めたことだから」と現場に「無理」を押し付けることがあります。もちろん、「ゴミゼロ」に限らず、会社の決定事項には従わなければなりません。ところが、日々の仕事に追われている現場は、「普段の仕事で手一杯なのに、よけいなことはしたくない」と考えてしまうものです。

課題解決型改善で大切なのは、現場を含む全体の協力をいかに取りつけ、いかにして全員を巻き込んでいくかということです。B社は、社員から環境に関するスローガンの募集、壁新聞の作成、家庭からのアイデアの募集など、社員の工場環境への意識を高めるユニークな工夫を行いました。

そして、ゴミの分別は「とにかくわかりやすく」を心がけ、職場ごとに出るゴミを調べ、間違いやすいものは現物を展示したり写真を貼るなどをし、どうしても分別がわからないものは「ハテナボックス」に入れてもらうようにしました。すべては「わかりやすく楽しく」のためです。



改善は「全員参画」で

そのうえで「出口のゴミ」だけでなく「入口のゴミ」を減らすための努力も続けました。ゴミの分別の負担を減らすためには、源流にさかのぼって購買時の「ゴミ」を減らすことが大切になります。

協力会社と調整して過剰な包装を減らし、再利用できるものを増やすなどさまざまな取り組みを行ないました。そのようにして現場の負荷を減らすだけでなく、そもそもゴミを「買うムダ」をなくしていく工夫を行なったのです。

こうした取り組みを続けた結果、B社はゴミゼロを達成することができました。課題解決型改善では、「全員で行なう」ことが大切なことです。

POINT

- ① 改善の成功には現場の協力が欠かせない
- ② 改善は現場だけに負荷をかけすぎるな
- ③ 「全員参加」ではなく「全員参画」の改善活動を